

司式 熊田雄二牧師
奏楽 浅池慶子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 1:1 われら主をたたえましきよき御名あがめばや

来る日ごとほめうたわん神にまし王にます 主のみいつたぐいなし アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 1:2 世は世へと歌い継ぎ 喜びと畏れもて

主のくしきわざを告げ いくしみ知れるもの み栄えをほめたたう アーメン

共同の祈禱 祈禱書6 ニケア信条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。我ら

は、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきのみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によっておとめマリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

(325年ニケア信条：キリストの神性、381年コンスタンチノポリス信条：聖霊の神性)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東北中会を覚えて 70
 今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン
 聖書朗読 ルカによる福音書4章31～44節 (新約聖書108頁)
 説教・祈祷 「その言葉には権威があった」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 101:1 命の泉に (ピアノ)

命の泉にましますイエスよ 豊かに流れてうるおしたまえ
 まことの言葉に渴きし我も 主の手にすがりて喜び進まん アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ
 願わくは御名をあがめさせたまえ
 御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
 我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
 我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
 我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ
 国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父・御子・御霊の大御神に
 ときわにたえせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 禱
 後 奏 (黙禱)
 報 告

I 権威ある言葉

今、権威のない言葉は「不要不急の外出はさけてください」です。この世の権威者たちは繰り返し叫ぶのですが、成果が上がっていません。その叫びが効果的でないと知るや、法律を作って罰則規定を設けようとしています。しかし、外出するなという声に、ある医師が警告していました。「自粛して外出しないと体が弱り、高齢者の場合さらに介護が大変になって、医療現場が逼迫する原因の一つになる」と。

だいたい、「不要不急の外出」をする人は、どれだけいるのでしょうか。意味もなく外出する人はほとんどいないのではないのでしょうか。何か用があって外出するのです。だから、「必要な外出のコントロール」と言った方がいいのではないのでしょうか。

「飲食店は夜8時まで営業可能」というと、「夜8時まで飲んだり食べたりしていいのだな」と思います。しかし、「いや、昼間も、集まって飲んだり食べたりしてはいけないのだ」と追加説明がなされます。集まっていいのは6人までか4人までかということまで決めようとしていると、いや、とにかく基本的に集まってはいけないのだと、医者から注意されました。禁止条項というのは、律法学者のように、細かい追加条項がどんどん多くなります。

「不要不急」という言葉自体、ふだん耳慣れないので、非常事態の時、繰り返されます。するとだんだん耳が慣れてきます。しかし、必要がない、急がない、そういう用事とは何だろうかと、あんまり考えないのではないのでしょうか。買い物に行く、病院に行く、これらは要があるに決まっています。遊びに行く、これは急がないに決まっています。ですから「必要な外出を自分でコントロールしましょう」と言った方が実際的です。

実際、いちばん効果的なのは、セルフ・コントロールができるようになることです。「不、不、」とは否定的な言い方ですから律法的です。しかし、律法の本質は、神への愛と隣人愛ですから、「愛しなさい」という肯定的な言い方がまさっています。愛が身に着く時、律法は効果的になります。本当に権威ある言葉には愛が伴うのです。

II メシア預言の実現

4章16節。ナザレで、イエスは安息日に会堂に入って、聖書を朗読されました。その箇所は、イザヤ書61：1です。

「主の霊が私の上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主が私に油を注がれたからである。主が私を遣わされたのは、捕らわれている人には解放を、目の見えぬ人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」

イエスは、油注がれたメシアとは私だと言われました。教えることと病気をいやすことは、今日に至るまで、キリストがしておられる御業です。日本にも宣教師が遣わされて、伝道のためにはミッション・スクール、病気をいやすためには病院が建てられました。きょうは、旧約聖書のメシア預言が権威ある言葉として実現した「癒し」の話です。

Ⅲ 言葉による癒し

① 汚れた霊に取りつかれた男の癒し

31節で、主イエスは、まず教えをお語りになります。そして32節、人々がその教えに非常に驚いたという理由は、マタイによる福音書の山上の説教と同じです。マタイ7：28-29「群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」

律法学者は、おもに「否、否、」という律法について語る解説者ですが、その「否、否、」が「不要不急」でエスカレートしていきました。必要があっても「否、否、」と言うほど不自然になっていきました。だんだん律法の本質「愛」から離れていきました。「否、否、」がチマチマ細かくなればなるほど、権威がなくなっていきました。律法学者は、権威がなくなっているのに権威を振りかざそうとするので、不要な掟をいっぱい作っていきました。

しかし、主イエスは、ご自身が神の言葉であるかのようにお語りになりました。ヨハネによる福音書では、主イエスは言葉なる神であります。その権威ある言葉で、汚れた霊に取りつかれた男を癒されたのです。「黙れ。この人から出て行け。」すると、悪霊はその男から出て行きました。

そこで人々は驚きました。「この言葉はいったい何だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じると、出て行くとは。」つまり、権威だけじゃない、力があるのです。律法学者も多少権威があるのですが、こんな力を持って人々を癒すことはありません。

本当の権威には具体的な力があると、人々は目の当たりにしました。しかも、言葉だけで権威と力があるので、「この言葉はいったい何だろう」と驚きますが、どう考えても、創世記1章の神以外に考えられないはずです。「神は言われた「光あれ」すると光があった」。

② 高熱に苦しむシモンのしゅうとめの癒し

シモンとはペトロの本名です。聖書では、ペトロの方が当たり前になっているので、私たちはペトロの本名を忘れてしまいます。そして、パウロは独身だったがペトロは結婚していたということが、どこで分かるか、すぐには分かりません。「私たちにはペトロのように妻を連れて歩く権利がないのか」とパウロは言っていますが（第一コリント9：5）、どこでペトロは結婚していると分かるかという、きょうのこの箇所なのです。ペトロには「しゅうとめ」がいる。つまり、妻の母がいるのです。

さて、今度も、お叱りになると熱が去りました。主イエスは言葉だけで癒されました。マタイ福音書では、イエスはペトロのしゅうとめの手に触れて癒された、とあります。どっちが本当だろうと思いますが、どっちも本当であれば、手に触れて熱に叱りつけられた、となります。そして、ルカは言葉の方に本質があると意識して書いたとなります。主イエスは神ですから、言葉でわざを行なうことができるからです。

Ⅳ 悪霊は知っている イエスの正体

さて、シモン・ペトロのしゅうとめが癒されたことは、ペトロが主イエスにお願いしたわけではありません。ペトロの妻がお願いしたわけでもありません。38節「人々は彼女のことをイエスに頼んだ」とあります。ですから、人々に愛されていたおばあさん、あるいは

はおばちゃんだと分かります。この結果は、当然40節のようになります。「いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人たちをイエスのもとに連れて来た。」

そして、このことを悪霊は利用しようとするのです。汚れた霊に取りつかれた男を癒された時、悪霊はイエスの正体を知っているので34節「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」言いました。イエスが「黙れ。この人から出て行け」と言われると、悪霊はその男から出て行きました。

ペトロのしゅうとめが癒されたあと、人々が病人たちをイエスのもとに連れて来た時も、悪霊たちは「お前は神の子だ」と言いながら人々から出て行きました。そして、「悪霊は、イエスをメシアだと知っていたから」主イエスはものを言うことをお許しになりませんでした。

ものを言うことを許されなくなった悪霊は、それでもイエスと、イエスをお遣わしになった神に抵抗しようとし、悪霊たちはものを言うことができないので、人間の口を使ってものを言おうとします。人間はイエスの正体を知らないので使いやすくと、悪魔は思いました。

42節「群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れていかないようにと、しきりに引き止めた。」引き止めようとする人々は、自分たちの専属の医者になってほしいと思ったことでしょうか。医者であるルカも、こんな人がいたら医者は要らないと思ったことでしょうか。大臣や県知事、市町村長も、こんな人がいたら医療費増額問題から解放されます。

しかし、主イエスは、病の癒しよりも福音宣教の言葉を語る使命の方を強調されました。43節「ほかの町にも神の国の福音を告げ知らせなければならない。私はそのために遣わされたのだ。」福音とは罪の赦しと新しい命の祝福です。主イエスは、癒しの奇跡を自分のために使うことはしませんでした。私たちのために受けるべき苦しみを最後まで受けてくださいました。

私たちはこの世の医療や福祉に感謝しながら、この命は主イエスと共に自分の使命を果たすことに意味があると思ひましょう。この命は死に向かっているが、同時に永遠の命に向かっていると思ひましょう。この命はこの世での使命を果たしさえすれば、少しも惜しくはないと、パウロと共に思ひましょう。これが、積極的な生き方を導く祝福となります。疫病感染の中でも、適切な医療や福祉を受けながら、積極的に生きていく考え方を導くのです。